

## 刊行にあたって

---

私が学生のころ、書店では「イミダス」とか「現代用語の基礎知識」という分厚い本をよく見かけた。その年に流行った流行語や造語などをまとめた本だった。最盛期には113万部を発刊した「イミダス」は2006年に廃刊となり、「現代用語の基礎知識」も2019年までは1,226ページあったものの、2020年からは296ページと、厚さを1/4にして継続する。

インターネットの普及とともに私たちの周りには情報が氾濫した。現代人の1日に届く情報量は江戸時代の1年分、平安時代の一生分ともいわれている。調べたいものがあれば、すぐにスマートフォンで調べることができ、誰かに相談したければSNSを使っていつでも匿名で相談できる。曖昧なままでなんとなく仕事をしていると、すぐに口コミが投稿され、インターネット上で半永久的に残ることとなる。

今日、私たち開業医がケアすべき対象者は、患者だけではなくなった。患者と同じようにスタッフに対しても十分な説明と同意が必要となった。「スタッフを雇用する」ことの社会的責任を高いレベルで求められ、学術の知識だけでなく労働基準法や医療法にも精通してバランスのとれた経営を行わなければならない。

だが、私はこの状況を喜んで受け入れたいと考えている。仕事をするにあたって、これほど面白い時代はない。あらゆる機械がデジタル化され、日進月歩のスピードで治療技術が向上している。たしかに人不足を感じることもあるが、アイデア次第ではいくらかでも解決策を見つけることができる。人とのコミュニケーションが希薄という人もいるが、自分次第では海外とも容易に繋がることできるようになった。やりたいことが多すぎて、ネガティブに考えている時間はない。

もし、いまの時代にもイミダスが残っていたら、「おもてなし」という言葉にはどのような説明が書かれていたのだろうか。これからの時代、よい治療をするためには人間（ヒト）としての総合力が問われる。私たちが1日にできる仕事量には限界がある。物事に優先順位をつけ、取捨選択し、仕組みやシステムで解決できることは解決しなければ時間が足りない。私はそうして作った時間のなかで、共感やおもてなしなど、「人間にしかできないこと」に全力を注いでいきたい。